

水溶性ケイ酸カリ

Si22(液剤)

Si25(粒剤)



本商品に使用されているケイ酸は、鉱石をマグマ状態に溶かして直接ケイ酸カリ成分を抽出する溶融濾過法で製造された水溶性のケイ酸と、根が吸収しやすい水溶性ケイ酸を配合した、他のケイ酸資材と違う無色透明のケイ酸カリ肥料です。



左の写真は、馬鈴薯に高濃度で希釈液を葉2枚に散布した翌朝の写真です。

一般的に、ケイ酸肥料は葉害や濃度障害は出ないと言われていたのですが、Si22は吸収性が高いため、このような濃度障害が発生します。

Si22(液剤)

保証成分 ケイ酸22% カリ6%
肥料としての副次効果で病害虫も抑制！



水分子とほぼ同じ大きさであるSi22のケイ酸は、すばやく植物体内へ吸収されて発根が旺盛になります。そのため表皮細胞や茎葉が強化され病害虫耐性が向上し、農薬の散布回数が減るなどの実績多数。枝ぶり、受光体性の向上、栄養成分のスムーズな吸収により増収も期待できます。

Si25(粒剤)

水溶性ケイ酸Si22をゼオライトに吸着させた土壤改良剤。ハウスの塩基障害の改善に！



土壌中に溶出したSi25のケイ酸が土壌中の塩基類と一緒にメタケイ酸となり塩基障害を軽減し、不溶化していた土壌養分を活性化させます。

作物名	使用目的	Si22の使用目的	Si25の使用目的
イチゴ	ウドンコ病、炭ソ病等の予防及び進行抑制	■ 予防で使用する場合 施用回数：1～2回/月 ● 灌水の場合：200ml/反・回を希釈 ● 葉面散布の場合： 育苗期 1回2000倍希釈 育苗期以降 3000倍希釈 ■ 発症後使用する場合 施用回数：1～2回/週、計4～5回 ● 灌水の場合：200ml/反・回を希釈 ● 葉面散布の場合： 育苗期 1回1000倍希釈 育苗期以降 500～1000倍希釈 ● 強アルカリ性資材との混用は避けてください(微量元素の吸収阻害が起きる可能性あり)。 ● 他剤と混用時は2000倍以上で混合してください(凝固、白濁や時間経過後の分離などが起きる場合は、単剤でお使いください)。 ● 高温時の葉面散布は濃度障害の原因になる恐れがあります。朝方か夕方の散布が効果的です。 ● 希釈倍数を守って使用して下さい。300倍以下での使用は避けて下さい。	■ 6kg(2袋)/10aを目安に土壌に混和して使用 ● 定植前後に投与する場合は、表土にムラにならないように散布してください。 ● 苗穴へのつまみ入れは濃度障害を起こすことがあるので、行わないようにしてください。 ● 消毒剤の使用について クロルピクリンなど塩素系の消毒剤を使用する場合は、十分なガス抜きの後、Si25を混和して下さい。Si25の混和後にクロピク消毒を行うと、塩化ケイ素反応を起こし、どちらの効果も期待できません。 ● チッ素過多、アルカリ性土壌では効果が現れにくくなります。過剰施肥を避け、適正pHの圃場での使用を心がけましょう。
キュウリ	ウドンコ病、褐斑病、つる割病、根腐病等の予防及び進行抑制		
トマト	尻腐れ病、黄化葉巻病等の予防及び進行抑制		
メロン	ウドンコ病等の予防及び進行抑制		
その他	病害耐性の向上 塩基障害の改善 連作障害の改善 食味・日持ちの向上 育苗時の徒長防止 硝酸イオンの低減 水分蒸散ストレス対策		